



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **2001188852 A**

(43) Date of publication of application: 10.07.01

(51) Int. Cl.  
**G06F 17/60**  
**G06F 3/00**  
**G06F 13/00**

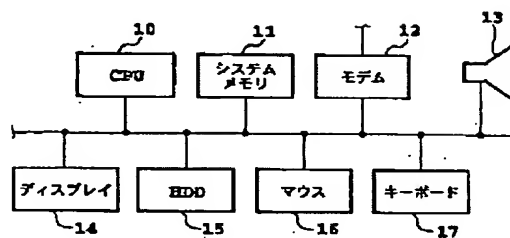
(21) Application number: **2000041941**(22) Date of filing: **18.02.00**(30) Priority: **22.10.99 JP 11301711**(71) Applicant: **ASAHI KASEI CORP**(72) Inventor: **OKAMOTO AKIHIRO**

(54) **GRAPHIC USER INTERFACE FOR MAILER,  
 INFORMATION PROCESSING METHOD  
 THEREFOR, RECORDING MEDIUM,  
 ADVERTISEMENT METHOD AND SERVER**

## (57) Abstract

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a graphical user interface for a mailer for supporting an operation for accessing a specified URL and the operation for transmitting electronic mail to a specified electronic mail address.

**SOLUTION:** A dedicated item is set on the tool bar of the operation window of the mailer, and when the pull-down menu of the item is selected, a CPU 10 displays the specified URL on a browser or automatically edits the electronic mail to be transmitted to the specified electronic mail address. Information relating to the dedicated item on the tool bar, the pull-down menu, the URL and the electronic mail address is acquired from this server connected to the internet and a CDROM.



COPYRIGHT: (C)2001,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-188852

(P2001-188852A)

(43) 公開日 平成13年7月10日 (2001.7.10)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード (参考)	
G 0 6 F 17/60		G 0 6 F 3/00	6 5 4 B	5 B 0 4 9
3/00	6 5 4	13/00	3 5 1 G	5 B 0 8 9
13/00	3 5 1	15/21	3 3 0	5 E 5 0 1

審査請求 有 請求項の数36 O L (全 18 頁)

(21) 出願番号 特願2000-41941 (P2000-41941)

(22) 出願日 平成12年2月18日 (2000.2.18)

(31) 優先権主張番号 特願平11-301711

(32) 優先日 平成11年10月22日 (1999.10.22)

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000000033

旭化成株式会社

大阪府大阪市北区堂島浜1丁目2番6号

(72) 発明者 岡本 明浩

東京都千代田区有楽町1丁目1番2号 旭

化成工業株式会社内

(74) 代理人 100077481

弁理士 谷 義一

Fターム (参考) 5B049 AA01 BB00 BB11 CC03 CC31

DD01 DD05 EE00 EE07 FF01

FF06 FF07 GG02 GG04

5B089 GA11 GA21 GB04 JA31 JB03

KA03 KB06 KB07 LB07 LB14

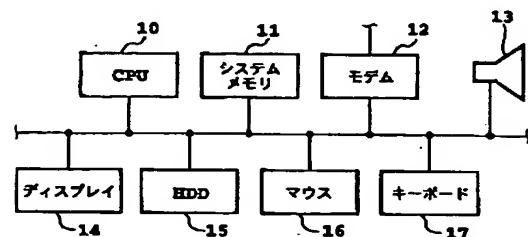
5E501 AA02 BA05 CA02 CB07 EA14

(54) 【発明の名称】 メーラー用グラフィカルユーザインターフェース、その情報処理方法、記録媒体、宣伝広告方法およびサーバ

## (57) 【要約】

【課題】 特定のURLにアクセスするための操作および電子メールを特定の電子メールアドレスに送信するための操作を支援するメーラー用グラフィカルユーザインターフェースを提供する。

【解決手段】 メーラーの操作用ウィンドウのツールバー上に専用のアイテムを設け、そのアイテムのプルダウンメニューを選択するとCPU 10は特定のURLをブラウザに表示させたり、または、特定の電子メールアドレスに送信するための電子メールを自動編集する。これらのツールバー上の専用アイテムやプルダウンメニューやURLや電子メールアドレスに関する情報はインターネットに接続したサーバやCDROMなどから取得可能とする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 メーラーの操作作用ウィンドウのツールバー上に配置されたアイテムをポインティングデバイスにより選択すると、選択されたアイテムに関するプルダウンメニューを表示するグラフィカルユーザインターフェースにおいて、

前記ツールバー上に第1のアイテムと第2のアイテムを配置するとともに、アクセス先を示す情報を含む複数の第2のフォルダを単一の第1のフォルダ内に保存しておく、

前記第1のアイテムが前記ポインティングデバイスにより選択された場合には、前記第1のフォルダ内に含まれる複数の第2のフォルダの識別名を選択候補としてプルダウンメニューで表示させる第1の手段と、

当該表示されたプルダウンメニュー内で前記ポインティングデバイスにより選択された第2のフォルダの識別名と同じ名前で前記ツールバー上の第2のアイテムを表示させる第2の手段と、

該第2のアイテムが前記ポインティングデバイスにより選択された場合には、アクセス目的を示す1以上の情報をプルダウンメニューの選択候補として表示させる第3の手段と、

当該表示されたプルダウンメニュー内で前記ポインティングデバイスに選択された情報に関連する外部のアクセス先にアクセスする第4の手段とを具えたことを特徴とするグラフィカルユーザインターフェース。

【請求項2】 請求項1に記載のグラフィカルユーザインターフェースにおいて、前記1以上の情報は、電子メールアドレスおよびURLのいずれか1つを含むことを特徴とするグラフィカルユーザインターフェース。

【請求項3】 請求項2に記載のグラフィカルユーザインターフェースにおいて、選択された前記情報が電子メールアドレスである場合には、当該電子メールアドレスに対して予め用意された電子メール文を前記メーラーにより送信することを特徴とするグラフィカルユーザインターフェース。

【請求項4】 請求項2に記載のグラフィカルユーザインターフェースにおいて、アクセス目的を示す前記1以上の情報はアクセス先名と共に単一の文書内に記載されており、前記第3の手段は該文書から前記1以上の情報を読み取り、プルダウンメニューに表示し、前記第4の手段は選択された情報に対応するアクセス先名を前記文書から取得することを特徴とするグラフィカルユーザインターフェース。

【請求項5】 請求項1に記載のグラフィカルユーザインターフェースにおいて、前記メーラーが起動された時点またはメーラーが起動中において、ユーザの操作がなされていない間において予め用意された音声データを出力させる第5の手段をさらに具えたことを特徴とするグラフィカルユーザインターフェース。

【請求項6】 メーラーの操作作用ウィンドウのツールバー上に配置されたアイテムをポインティングデバイスにより選択すると、選択されたアイテムに関するプルダウンメニューを表示するグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法において、

前記ツールバー上に第1のアイテムと第2のアイテムを配置するとともに、アクセス先を示す情報を含む複数の第2のフォルダを単一の第1のフォルダ内に保存しておく、

10 前記第1のアイテムが前記ポインティングデバイスにより選択された場合には、前記第1のフォルダ内に含まれる複数の第2のフォルダの識別名を選択候補としてプルダウンメニューで表示させ、

当該表示されたプルダウンメニュー内で前記ポインティングデバイスにより選択された第2のフォルダの識別名と同じ名前で前記ツールバー上の第2のアイテムを表示させ、

該第2のアイテムが前記ポインティングデバイスにより選択された場合には、アクセス目的を示す1以上の情報をプルダウンメニューの選択候補として表示させ、

20 当該表示されたプルダウンメニュー内で前記ポインティングデバイスに選択された情報に関連する外部のアクセス先にアクセスすることを特徴とするグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法。

【請求項7】 請求項6に記載のグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法において、前記1以上の情報は、電子メールアドレスおよびURLのいずれか1つを含むことを特徴とするグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法。

30 【請求項8】 請求項7に記載のグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法において、選択された前記情報が電子メールアドレスである場合には、当該電子メールアドレスに対して予め用意された電子メール文を前記メーラーにより送信することを特徴とするグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法。

【請求項9】 請求項7に記載のグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法において、アクセス目的を示す前記1以上の情報はアクセス先名と共に単一の文書内に記載されており、該文書から前記1以上の情報を読み取り、プルダウンメニューに表示し、選択された情報に対応するアクセス先名を前記文書から取得することを特徴とするグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法。

【請求項10】 請求項6に記載のグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法において、前記メーラーが起動された時点においてまたはメーラーが起動中において、ユーザの操作がなされていない間において予め用意された音声データを出力させることを特徴とするグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法。

50 【請求項11】 メーラーの操作作用ウィンドウのツール

バー上配置されたアイテムをポインティングデバイスにより選択すると、選択されたアイテムに関するプルダウンメニューを表示するグラフィカルユーザインターフェースのためのプログラムであって、コンピュータにより読み取り可能なプログラムを記録した記録媒体において、

前記ツールバー上に第1のアイテムと第2のアイテムを配置するとともに、アクセス先を示す情報を含む複数の第2のフォルダを単一の第1のフォルダ内に保存しておく、

前記第1のアイテムが前記ポインティングにより選択された場合には、前記第1のフォルダ内に含まれる複数の第2のフォルダの識別名を選択候補としてプルダウンメニューで表示させる第1のステップと、

当該表示されたプルダウンメニュー内で前記ポインティングデバイスにより選択された第2のフォルダの識別名と同じ名前前記ツールバー上の第2のアイテムを表示させる第2のステップと、

該第2のアイテムが前記ポインティングデバイスにより選択された場合には、

アクセス目的を示す1以上の情報をプルダウンメニューの選択候補として表示させる第3のステップと、

当該表示されたプルダウンメニュー内で前記ポインティングデバイスに選択された情報に関連する外部のアクセス先にアクセスする第4のステップとを具えたことを特徴とする記録媒体。

【請求項12】 請求項11に記載の記録媒体において、前記1以上の情報は、電子メールアドレスおよびURLのいずれか1つを含むことを特徴とする記録媒体。

【請求項13】 請求項12に記載の記録媒体において、選択された前記情報が電子メールアドレスである場合には、当該電子メールアドレスに対して予め用意された電子メール文を前記メーラーにより送信することを特徴とする記録媒体。

【請求項14】 請求項12に記載の記録媒体において、アクセス目的を示す前記1以上の情報はアクセス先名と共に単一の文書内に記載されており、前記第3のステップでは該文書から前記1以上の情報を読み取り、プルダウンメニューに表示し、前記第4のステップでは選択された情報に対応するアクセス先名を前記文書から取得することを特徴とする記録媒体。

【請求項15】 請求項11に記載の記録媒体において、前記プログラムは、前記メーラーが起動された時点においてまたはメーラーが起動中において、ユーザの操作がなされていない間において予め用意された音声データを出力させる第5のステップをさらに具えたことを特徴とする記録媒体。

【請求項16】 メーラーが搭載された一般ユーザのクライアントおよび商品の宣伝を行なうための第1のサーバ、少なくとも該第1のサーバに関する通信アドレス情

報を保有する第2のサーバが通信ネットワークに接続されており、

前記クライアントは前記第2のサーバから前記通信アドレス情報をダウンロードし、

前記クライアントは当該ダウンロードした通信アドレス情報を用いて前記メーラーにより前記第1のサーバに対して商品の宣伝情報を要求し、

当該要求を受けた第1のサーバは宣伝情報を要求元のクライアントに対して送信し、

10 当該送信された宣伝情報を要求元のクライアントで受信することを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項17】 請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記第2のサーバから前記クライアントに対して音声形態の宣伝情報をダウンロード可能であり、前記クライアントにおいて、前記音声形態の宣伝情報を再生出力することを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項18】 請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記通信アドレス情報および／または音声形態の宣伝情報を携帯用記録媒体に記録しておき、該記録媒体が前記一般ユーザに送付されて前記通信アドレス情報および／または音声形態の宣伝情報が前記一般ユーザのクライアントにインストールされることを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項19】 請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記一般ユーザから前記商品の宣伝を行なうための第1のサーバへの宣伝情報の要求は電子メールの形態で行なわれることを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項20】 請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記宣伝情報はボイスメールの形態で送信されることを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項21】 請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記通信アドレスをダウンロードしたクライアントのメールアドレスを前記第2のサーバに記憶しておき、宣伝情報を前記クライアントにボイスメールの形態で送信することを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項22】 請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記クライアントから前記通信アドレス情報を保有する第2のサーバへは所定のタイミングで繰り返し、通信アドレス情報の要求が送信されることを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項23】 請求項22に記載の宣伝広告方法において、前記通信アドレス情報が複数種類あって、どの種類を使用するかの設定情報が前記クライアントに記録されており、前記クライアントが前記通信アドレスの情報の要求を前記第2のサーバに送信する際に、当該設定されている種類の情報のみを要求することを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項24】 請求項22に記載の宣伝広告方法において、前記通信アドレス情報が複数種類あってクライアントごとにどの種類を使用するかが前記第2のサーバ

に記録されており、前記通信アドレス情報の要求が前記クライアントから前記第2のサーバに送信されてきた場合に、前記第2のサーバが当該クライアントがどの種類の情報を必要としているかを判断して必要な種類の情報のみを当該クライアントに送信することを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項25】 請求項22に記載の宣伝広告方法において、前記クライアントは、前記通信アドレス情報を保有する第2のサーバから通信アドレス情報が送信されるごとに当該送信された通信アドレス情報で、これまで

に送信された通信アドレス情報を書き換えることを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項26】 請求項17に記載の宣伝広告方法において、前記クライアントから前記音声形態の宣伝情報を保有する第2のサーバへは所定のタイミングで繰り返し、音声形態の宣伝情報の要求が送信されることを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項27】 請求項26に記載の宣伝広告方法において、前記音声形態の宣伝情報が複数種類あって、どの種類を使用するかの設定情報が前記クライアント側に記録されており、前記クライアントが前記音声形態の宣伝情報の要求を前記第2のサーバに送信する際に、当該設定されている種類の情報のみを要求することを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項28】 請求項26に記載の宣伝広告方法において、前記音声形態の宣伝情報が複数種類あってクライアントごとにどの種類を使用するかが前記第2のサーバに記録されており、前記音声形態の宣伝情報の要求が前記クライアントから前記第2のサーバに送信されてきた場合に前記第2のサーバが当該クライアントがどの種類の情報を必要としているかを判断して必要な種類の情報のみを当該クライアントに送信することを特徴とする宣伝広告方法。

【請求項29】 メーラーが搭載された一般ユーザのクライアントおよび商品の宣伝を行なうための宣伝広告用サーバ、少なくとも該宣伝広告用サーバに関する通信アドレス情報を保有するサーバが通信ネットワークに接続されており、前記サーバは、

前記クライアントがダウンロードする前記通信アドレス情報を記憶する記憶機能と、  
前記クライアントに前記通信アドレス情報をダウンロードするための通信機能とを有するサーバであって、前記クライアントは当該ダウンロードした通信アドレス情報を用いて前記メーラーにより前記宣伝広告用サーバに対して商品の宣伝情報を要求し、当該要求を受けた宣伝広告用サーバは宣伝情報を要求元のクライアントに対して送信し、当該送信された宣伝情報を要求元のクライアントで受信することを特徴とするサーバ。

【請求項30】 請求項29に記載のサーバにおいて、該サーバから前記クライアントに対して音声形態の

宣伝情報をダウンロード可能であり、前記クライアントにおいて、前記音声形態の宣伝情報を再生出力することとを特徴とするサーバ。

【請求項31】 請求項29に記載のサーバにおいて、前記一般ユーザから前記商品の宣伝を行なうための宣伝広告用サーバへの宣伝情報の要求は電子メールの形態で行なわれることを特徴とするサーバ。

【請求項32】 請求項29に記載のサーバにおいて、前記クライアントから該サーバへ所定のタイミングで繰り返し通信アドレス情報の要求が送信されることを特徴とするサーバ。

【請求項33】 請求項29に記載のサーバにおいて、前記通信アドレス情報が複数種類あって、どの種類を使用するかの設定情報が前記クライアントに記録されており、前記クライアントから前記通信アドレス情報の要求が該サーバに送信される際に、当該設定されている種類の情報のみが要求されることを特徴とするサーバ。

【請求項34】 請求項29に記載のサーバにおいて、前記通信アドレス情報が複数種類あって、クライアントごとにどの種類を使用するかが該サーバに記録されており、前記通信アドレス情報の要求が前記クライアントから該サーバに送信されてきた場合に、該サーバが当該クライアントがどの種類の情報を必要としているかを判断して必要な情報のみを当該クライアントに送信することを特徴とするサーバ。

【請求項35】 請求項29に記載のサーバにおいて、前記クライアントは、前記通信アドレス情報を保有する該サーバから通信アドレス情報が送信されるごとに、当該送信された通信アドレス情報で、これまでに送信された通信アドレス情報を書き換えることを特徴とするサーバ。

【請求項36】 請求項29に記載のサーバにおいて、前記メーラーは請求項1に記載のグラフィカルユーザインターフェースを具えたメーラーであることを特徴とするサーバ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、電子メール用のプログラムをコンピュータ上で実行したときに、電子メールの送信やURLに対するアクセスをユーザが行うための操作を支援するメーラー用グラフィカルユーザインターフェース、その情報処理方法、記録媒体、宣伝広告方法およびサーバに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、電子メール用ソフトは、メーラーと呼ばれ、電子メールを送信する機能、電子メールを受信する機能および電子メールを作成する機能を有している。その他、付加価値として、電子メールの宛先、氏名を記載したアドレスブック（住所録）を閲覧したり、作成する機能を有するメーラーも知られている。

【0003】インターネットでは電子メールの他にWW W (World Wide Web) と呼ばれるサービスを受けられる。このサービスは、一般的にはインターネットに接続されたサーバがURLと呼ばれるイメージ、文字、音声等の混在文書を提供し、インターネットと呼ばれる通信ネットワークを介してクライアント側でも上記文書を表示できるというサービスである。クライアント側でURLにアクセスするためには、ブラウザと呼ばれるURL表示用ソフトをクライアント用のパソコンに搭載する。

【0004】サーバがURLで提供する情報提供には各種あるが、特に、販売製品の紹介など商業目的のものが急速に増加してきている。クライアント側のユーザではサーバのURLにアクセスし、所望の商品説明が記載されているページを表示させる。なお、表示されているURLの所定のボタンや文字列をユーザがマウスで指定すると、メーラーが自動的に起動し、ユーザが送信したい文章を入力すると、特定の電子メールアドレスに電子メールを送信できるブラウザも提案されている。

【0005】また、受信した電子メール本文の中に上記URLを記載しておき、ユーザがメーラーにより電子メールを表示させ、電子メール本文中のURLをマウスにより指定すると、ブラウザが自動的に起動し、上記URLにアクセスするメーラーも提案されている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】商品購入の意欲のあるものは、自分で、その商品に関するURLを調べ、アクセスする。しかしながら、商品購入意欲のないものは、URLを閲覧するための操作や電子メールにより資料請求を要求する操作等は煩雑なものとなる。

【0007】そこで、本発明の目的は、特定のURLに対するアクセスのための操作および電子メールを特定の宛先に送信するための操作を支援するメーラー用グラフィカルユーザインターフェース、その情報処理方法、記録媒体、宣伝広告方法およびサーバを提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】このような目的を達成するために、請求項1の発明は、メーラーの操作用ウィンドウのツールバー上に配置されたアイテムをポインティングデバイスにより選択すると、選択されたアイテムに関するプルダウンメニューを表示するグラフィカルユーザインターフェースにおいて、前記ツールバー上に第1のアイテムと第2のアイテムを配置するとともに、アクセス先を示す情報を含む複数の第2のフォルダを単一の第1のフォルダ内に保存しておき、前記第1のアイテムが前記ポインティングデバイスにより選択された場合には、前記第1のフォルダ内に含まれる複数の第2のフォルダの識別名を選択候補としてプルダウンメニューで表示させる第1の手段と、当該表示されたプルダウンメ

ユー内で前記ポインティングデバイスにより選択された第2のフォルダの識別名と同じ名前前で前記ツールバー上の第2のアイテムを表示させる第2の手段と、該第2のアイテムが前記ポインティングデバイスにより選択された場合には、アクセス目的を示す1以上の情報をプルダウンメニューの選択候補として表示させる第3の手段と、当該表示されたプルダウンメニュー内で前記ポインティングデバイスに選択された情報に関連する外部のアクセス先にアクセスする第4の手段とを具えたことを特徴とする。

【0009】請求項2の発明は、請求項1に記載のグラフィカルユーザインターフェースにおいて、前記1以上の情報は、電子メールアドレスおよびURLのいずれか1つを含むことを特徴とする。

【0010】請求項3の発明は、請求項2に記載のグラフィカルユーザインターフェースにおいて、選択された前記情報が電子メールアドレスである場合には、当該電子メールアドレスに対して予め用意された電子メール文を前記メーラーにより送信することを特徴とする。

【0011】請求項4の発明は、請求項2に記載のグラフィカルユーザインターフェースにおいて、アクセス目的を示す前記1以上の情報はアクセス先名と共に単一の文書内に記載されており、前記第3の手段は該文書から前記1以上の情報を読み取り、プルダウンメニューに表示し、前記第4の手段は選択された情報に対応するアクセス先名を前記文書から取得することを特徴とする。

【0012】請求項5の発明は、請求項1に記載のグラフィカルユーザインターフェースにおいて、前記メーラーが起動された時点またはメーラーが起動中において、ユーザの操作がなされていない間において予め用意された音声データを出力させる第5の手段をさらに具えたことを特徴とする。

【0013】請求項6の発明は、メーラーの操作用ウィンドウのツールバー上に配置されたアイテムをポインティングデバイスにより選択すると、選択されたアイテムに関するプルダウンメニューを表示するグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法において、前記ツールバー上に第1のアイテムと第2のアイテムを配置するとともに、アクセス先を示す情報を含む複数の第2のフォルダを単一の第1のフォルダ内に保存しておき、前記第1のアイテムが前記ポインティングデバイスにより選択された場合には、前記第1のフォルダ内に含まれる複数の第2のフォルダの識別名を選択候補としてプルダウンメニューで表示させ、当該表示されたプルダウンメニュー内で前記ポインティングデバイスにより選択された第2のフォルダの識別名と同じ名前前で前記ツールバー上の第2のアイテムを表示させ、該第2のアイテムが前記ポインティングデバイスにより選択された場合には、アクセス目的を示す1以上の情報をプルダウンメニューの選択候補として表示させ、当該表示されたプルダウン

10

20

30

40

50

メニュー内で前記ポインティングデバイスに選択された情報に関連する外部のアクセス先にアクセスすることを特徴とする。

【0014】請求項7の発明は、請求項6に記載のグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法において、前記1以上の情報は、電子メールアドレスおよびURLのいずれか1つを含むことを特徴とする。

【0015】請求項8の発明は、請求項7に記載のグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法において、選択された前記情報が電子メールアドレスである場合には、当該電子メールアドレスに対して予め用意された電子メール文を前記メーラーにより送信することを特徴とする。

【0016】請求項9の発明は、請求項7に記載のグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法において、アクセス目的を示す前記1以上の情報はアクセス先名と共に単一の文書内に記載されており、該文書から前記1以上の情報を読み取り、プルダウンメニューに表示し、選択された情報に対応するアクセス先名を前記文書から取得することを特徴とする。

【0017】請求項10の発明は、請求項6に記載のグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法において、前記メーラーが起動された時点においてまたはメーラーが起動中において、ユーザの操作がなされていない間において予め用意された音声データを出力させることを特徴とするグラフィカルユーザインターフェースの情報処理方法。

【0018】請求項11の発明は、メーラーの操作用ウィンドウのツールバー上配置されたアイテムをポインティングデバイスにより選択すると、選択されたアイテムに関するプルダウンメニューを表示するグラフィカルユーザインターフェースのためのプログラムであって、コンピュータにより読み取り可能なプログラムを記録した記録媒体において、前記ツールバー上に第1のアイテムと第2のアイテムを配置するとともに、アクセス先を示す情報を含む複数の第2のフォルダを単一の第1のフォルダ内に保存しておき、前記第1のアイテムが前記ポインティングにより選択された場合には、前記第1のフォルダ内に含まれる複数の第2のフォルダの識別名を選択候補としてプルダウンメニューで表示させる第1のステップと、当該表示されたプルダウンメニュー内で前記ポインティングデバイスにより選択された第2のフォルダの識別名と同じ名前前で前記ツールバー上の第2のアイテムを表示させる第2のステップと、該第2のアイテムが前記ポインティングデバイスにより選択された場合には、アクセス目的を示す1以上の情報をプルダウンメニューの選択候補として表示させる第3のステップと、当該表示されたプルダウンメニュー内で前記ポインティングデバイスに選択された情報に関連する外部のアクセス先にアクセスする第4のステップとを具えたことを特徴

とする。

【0019】請求項12の発明は、請求項11に記載の記録媒体において、前記1以上の情報は、電子メールアドレスおよびURLのいずれか1つを含むことを特徴とする。

【0020】請求項13の発明は、請求項12に記載の記録媒体において、選択された前記情報が電子メールアドレスである場合には、当該電子メールアドレスに対して予め用意された電子メール文を前記メーラーにより送信することを特徴とする。

【0021】請求項14の発明は、請求項12に記載の記録媒体において、アクセス目的を示す前記1以上の情報はアクセス先名と共に単一の文書内に記載されており、前記第3のステップでは該文書から前記1以上の情報を読み取り、プルダウンメニューに表示し、前記第4のステップでは選択された情報に対応するアクセス先名を前記文書から取得することを特徴とする。

【0022】請求項15の発明は、請求項11に記載の記録媒体において、前記プログラムは、前記メーラーが起動された時点においてまたはメーラーが起動中において、ユーザの操作がなされていない間において予め用意された音声データを出力させる第5のステップをさらに具えたことを特徴とする。

【0023】請求項16の発明は、メーラーが搭載された一般ユーザのクライアントおよび商品の宣伝を行なうための第1のサーバ、少なくとも該第1のサーバに関する通信アドレス情報を保有する第2のサーバが通信ネットワークに接続されており、前記クライアントは前記第2のサーバから前記通信アドレス情報をダウンロードし、前記クライアントは当該ダウンロードした通信アドレス情報を用いて前記メーラーにより前記第1のサーバに対して商品の宣伝情報を要求し、当該要求を受けた第1のサーバは宣伝情報を要求元のクライアントに対して送信し、当該送信された宣伝情報を要求元のクライアントで受信することを特徴とする。

【0024】請求項17の発明は、請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記第2のサーバから前記クライアントに対して音声形態の宣伝情報をダウンロード可能であり、前記クライアントにおいて、前記音声形態の宣伝情報を再生出力することを特徴とする。

【0025】請求項18の発明は、請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記通信アドレス情報および／または音声形態の宣伝情報を携帯用記録媒体に記録しておき、該記録媒体が前記一般ユーザに送付されて前記通信アドレス情報および／または音声形態の宣伝情報が前記一般ユーザのクライアントにインストールされることを特徴とする。

【0026】請求項19の発明は、請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記一般ユーザから前記商品の宣伝を行なうための第1のサーバへの宣伝情報の要求は

10

20

30

40

50



電子メールの形態で行なわれることを特徴とする。

【0027】請求項20の発明は、請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記宣伝情報はボイスメールの形態で送信されることを特徴とする。

【0028】請求項21の発明は、請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記通信アドレスをダウンロードしたクライアントのメールアドレスを前記第2のサーバに記憶しておき、宣伝情報を前記クライアントにボイスメールの形態で送信することを特徴とする。

【0029】請求項22の発明は、請求項16に記載の宣伝広告方法において、前記クライアントから前記通信アドレス情報を保有する第2のサーバへは所定のタイミングで繰り返し、通信アドレス情報の要求が送信されることを特徴とする。

【0030】請求項23の発明は、請求項22に記載の宣伝広告方法において、前記通信アドレス情報が複数種類あって、どの種類を使用するかの設定情報が前記クライアントに記録されており、前記クライアントが前記通信アドレスの情報の要求を前記第2のサーバに送信する際に、当該設定されている種類の情報のみを要求すること

を特徴とする。

【0031】請求項24の発明は、請求項22に記載の宣伝広告方法において、前記通信アドレス情報が複数種類あってクライアントごとにどの種類を使用するか前記第2のサーバに記録されており、前記通信アドレス情報の要求が前記クライアントから前記第2のサーバに送信されてきた場合に、前記第2のサーバが当該クライアントがどの種類の情報を必要としているかを判断して必要な種類の情報のみを当該クライアントに送信することを特徴とする。

【0032】請求項25の発明は、請求項22に記載の宣伝広告方法において、前記クライアントは、前記通信アドレス情報を保有する第2のサーバから通信アドレス情報が送信されるごとに当該送信された通信アドレス情報で、これまでに送信された通信アドレス情報を書き換えることを特徴とする。

【0033】請求項26の発明は、請求項17に記載の宣伝広告方法において、前記クライアントから前記音声形態の宣伝情報を保有する第2のサーバへは所定のタイミングで繰り返し、音声形態の宣伝情報の要求が送信されることを特徴とする。

【0034】請求項27の発明は、請求項26に記載の宣伝広告方法において、前記音声形態の宣伝情報が複数種類あって、どの種類を使用するかの設定情報が前記クライアント側に記録されており、前記クライアントが前記音声形態の宣伝情報の要求を前記第2のサーバに送信する際に、当該設定されている種類の情報のみを要求することを特徴とする。

【0035】請求項28の発明は、請求項26に記載の宣伝広告方法において、前記音声形態の宣伝情報が複数

種類あってクライアントごとにどの種類を使用するかが前記第2のサーバに記録されており、前記音声形態の宣伝情報の要求が前記クライアントから前記第2のサーバに送信されてきた場合に前記第2のサーバが当該クライアントがどの種類の情報を必要としているかを判断して必要な種類の情報のみを当該クライアントに送信することを特徴とする。

【0036】請求項29の発明は、メーラーが搭載された一般ユーザのクライアントおよび商品の宣伝を行なうための宣伝広告用サーバ、少なくとも該宣伝広告用サーバに関する通信アドレス情報を保有するサーバが通信ネットワークに接続されており、前記サーバは、前記クライアントがダウンロードする前記通信アドレス情報を記憶する記憶機能と、前記クライアントに前記通信アドレス情報をダウンロードするための通信機能とを有するサーバであって、前記クライアントは当該ダウンロードした通信アドレス情報を用いて前記メーラーにより前記宣伝広告用サーバに対して商品の宣伝情報を要求し、当該要求を受けた宣伝広告用サーバは宣伝情報を要求元のクライアントに対して送信し、当該送信された宣伝情報を要求元のクライアントで受信することを特徴とする。

【0037】請求項30の発明は、請求項29に記載のサーバにおいて、該サーバから前記クライアントに対して音声形態の宣伝情報をダウンロード可能であり、前記クライアントにおいて、前記音声形態の宣伝情報を再生出力することを特徴とする。

【0038】請求項31の発明は、請求項29に記載のサーバにおいて、前記一般ユーザから前記商品の宣伝を行なうための宣伝広告用サーバへの宣伝情報の要求は電子メールの形態で行なわれることを特徴とする。

【0039】請求項32の発明は、請求項29に記載のサーバにおいて、前記クライアントから該サーバへ所定のタイミングで繰り返し通信アドレス情報の要求が送信されることを特徴とする。

【0040】請求項33の発明は、請求項29に記載のサーバにおいて、前記通信アドレス情報が複数種類あって、どの種類を使用するかの設定情報が前記クライアントに記録されており、前記クライアントから前記通信アドレス情報の要求が該サーバに送信される際に、当該設定されている種類の情報のみが要求されることを特徴とする。

【0041】請求項34の発明は、請求項29に記載のサーバにおいて、前記通信アドレス情報が複数種類あって、クライアントごとにどの種類を使用するかが該サーバに記録されており、前記通信アドレス情報の要求が前記クライアントから該サーバに送信されてきた場合に、該サーバが当該クライアントがどの種類の情報を必要としているかを判断して必要な情報のみを当該クライアントに送信することを特徴とする。

【0042】請求項35の発明は、請求項29に記載の



サーバにおいて、前記クライアントは、前記通信アドレス情報を保有する該サーバから通信アドレス情報が送信されるごとに、当該送信された通信アドレス情報で、これまでに送信された通信アドレス情報を書き換えることを特徴とする。

【0043】請求項36、請求項29に記載のサーバにおいて、前記メーラーは請求項1に記載のグラフィカルユーザインターフェースを具えたメーラーであることを特徴とする。

【0044】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施形態を詳細に説明する。

【0045】（第1の実施形態）図1はメーラーを搭載する汎用コンピュータの概略のシステム構成を示す。図1において、CPU10、システムメモリ11、モデム12、スピーカ13、ディスプレイ14、ハードディスク記憶装置（HDD）15、マウス16、キーボード17がバスを介して互いに接続されている。なお、モデム12、スピーカ13等はインターフェースを介してバスに接続されるが、説明の便宜上インターフェースは図1では省略している。

【0046】CPU10はオペレーティングシステム（いわゆるOS）にしたがって、システム制御を行うと共に、本発明に係わるメーラー用のプログラムを実行して、電子メールの通信を行う。また、メーラーが起動されている間、ユーザの指示に応じてメーラーがブラウザを起動して特定のURLにアクセスを行わせる。

【0047】モデム12は電話回線と接続し、プロバイダの通信サーバを介して、インターネットに接続する。なお、この実施形態ではインターネットに接続する例を説明するが、本発明はLANなどにも適用できるので、接続したい通信ネットワークに応じて、汎用コンピュータと通信ネットワークの間を接続する機器を適宜定めればよい。例えば、インターネットと汎用コンピュータを直接的に接続する場合には、ルータと呼ばれる機器を使用すればよいし、ISDNと呼ばれるデジタルの公衆電話回線に汎用コンピュータを接続するためにはターミナルアダプタと呼ばれる接続機器を使用すればよい。

【0048】スピーカ13は、音声または音響を出力する。ディスプレイ14は、CPU10に対して入力されたデータやCPU10の演算処理結果等を表示する。

【0049】ディスプレイ14に表示するためのイメージデータはシステムメモリの中の専用の記憶領域に記憶され、CPU10またはダイレクトメモリアクセスコントローラ（DMAコントローラ、不図示）によりイメージデータがディスプレイ14に転送され、イメージデータが可視表示される。

【0050】HDD15はOS用のプログラム、本発明に係わるメーラー用プログラムおよびその関連データ、ブラウザ用プログラムおよびその関連データが格納され

ている。本実施形態ではOSはマイクロソフト社のウィンドウ95（商標）を使用するものとして説明する。ブラウザはメーラーと連動可能な機能を有し、HTML文書を表示可能なもの、たとえば、ネットスケープ社のコミュニケーションター（商標）やマイクロソフト社のインターネットエクスプローラ（商標）を使用することができる。本発明に係わるメーラーについては後述する。

【0051】マウス16は表示画面上のマウスカーソルを移動させ、マウスカーソルにより表示画面上の位置を指定し、マウス16のクリックボタンを操作することで指定の確定を行う。キーボード17からは文字等を入力する。また、汎用コンピュータにはCDROM読取装置を有し、CDROMに記録されたメーラーをHDD15にインストールすることが可能である。

【0052】メーラーについて図2を使用して説明する。メーラーのプログラムの中に本発明に係わるグラフィカルユーザインターフェースを実現するプログラムが内蔵されている。このプログラムをCPU10が実行することにより、装置としてのグラフィカルユーザインターフェースが実現される。

【0053】メーラーおよび関連のデータはフォルダ内に格納される。フォルダはディレクトリ名（この例では「電子メール」）を有し、ディレクトリのツリーは図2に示す通りになる。

【0054】より具体的には、「電子メール」フォルダ51内に以下のフォルダやファイル、すなわち、「サービス」フォルダ52、メーラー55を実行した場合に表示するウィンドウ用のイメージ（図3参照）、プルダウンメニューの表示に使用するイメージ、その他、ウィンドウやプルダウンメニューの表示に使用する文字列、位置等のウィンドウ配置情報を記載したデータ（その他ファイル54）およびメーラー55が格納される。

【0055】後述の「interval. wav」ファイルの音声データを再生出力するための再生機能はメーラー55に組み込まれている。「サービス」フォルダ52内には1以上の第3者が提供するフォルダが格納される。図2の例では「AAA」フォルダ、「BBB」フォルダが格納されていることを示している。実際にはこれらのフォルダ名には商品名や会社名を使用することが好適であろう。「AAA」フォルダの中には1つのテキストファイル（ファイル名「preference. txt」）58と2つの音声ファイル（ファイル名「start. wav」および「interval. wav」）59、60が格納されている。「BBB」フォルダも同じファイル名を有する1つのテキストファイルと音声ファイル（この例では2つ）が格納されている。なお、音声ファイルが無い場合も許容する。また、ファイル名を統一せずとも、利用目的とファイル名が対応付けられた参照用ファイルを用いてもよい。

【0056】「preference. txt」の一例

10

20

30

40

50

を図4に示す。この文書では、「URL:ホームページ  
(ここは変更可):http:」までが定型の文字列で  
あり、この文字列以降に続く文字列「www.×××  
×.co.jp/△△△」が、URLである。URLは  
サービスフォルダ内に格納されるフォルダごとに異なる  
のが普通である。

【0057】図4のテキスト文書中の「Mail:資料  
請求メール:」が定型の文字列であり、この文字列以降  
に引き続く文字列「○○○@×××.co.jp」が上  
記特定のサーバに電子メールを送付する電子メールアド  
レスである。

【0058】テキスト文書中の「IntervalMi  
n:180」は上述のinterval.wavという  
音声ファイルを再生出力する最短時間間隔を指定する文  
字列である。

【0059】テキスト文書中の「IntervalMa  
x:300」は上述のinterval.wavという  
音声ファイルを再生出力する最長時間間隔を指定する文  
字列である。

【0060】メーラー55が起動された時点で、メー  
ラー55の指示で「start.wav」の音声ファイル  
が有する音声データ、たとえば「ホームページにアクセ  
スしてください」が自動再生され、その後、上記テキス  
トファイルで定義された最短時間間隔と最長時間間隔と  
の間でランダムにinterval.wavの音声ファ  
イルが有する音声データ、たとえば、「資料請求を行っ  
てください」が再生出力される。

【0061】次にクライアント側の電子メールの動作に  
ついて説明する。

【0062】ユーザは、予め、メーラー55を入手して  
いるものとする。入手方法としては、インターネットに  
接続された特定のサーバからダウンロードする方法やC  
DROMからインストールする方法をとることができる。  
メーラー55のダウンロードやインストール時に図  
2に示すようなHDD15上のディレクトリにメーラー  
55、「サービス」フォルダ52、その他データファイ  
ルやフォルダ53、54のディレクトリ名が登録され  
る。なお、このようなディレクトリ情報はOSがシステ  
ム情報の形態で管理する。

【0063】また、「サービス」フォルダ52内に格納  
されるフォルダ56やその中に格納されるファイル58  
～60もダウンロード時あるいはインストール時にHD  
D15上のディレクトリ上にディレクトリ名が登録され  
る。

【0064】通常、HDD15に格納されたプログラム  
は、OSが提供するディレクトリの表示画面上でアイコ  
ン(あるいはディレクトリ名)の形態でその存在が提示  
される。また、このアイコンをマウスで指定し、左クリ  
ックボタンを操作することで指定されたアイコンのプロ  
グラムが起動される。したがって、ユーザがアイコンを

操作してメーラー55を起動すると、図5に示す処理手  
順がCPU10において開始される。

【0065】CPU10は最初にメール送信用のウィン  
ドウ画面をディスプレイ14に表示させる。より具体的  
には、ウィンドウ用イメージおよびウィンドウ内に表  
示する文字列をHDD15の所定ディレクトリから読み出  
してシステムメモリ11のワーク領域で合成する。次に  
合成したウィンドウ用イメージをシステムメモリ11内  
のディスプレイ用ビデオメモリ領域に書き込む。ビデオ  
メモリ領域のイメージがディスプレイ14に転送される  
ので、ユーザはディスプレイ14の表示画面上で図3の  
ようなウィンドウ画面を見ることができる。なお、この  
時点で、図3のプルダウンメニュー105は表示されな  
い。

【0066】ここで図3のウィンドウ画面100を説明  
しておく。図3において、101はツールバー上のファ  
イルメニューであり、ファイルメニュー101の文字列  
をマウスカーソルで指定すると、プルダウンメニューが  
表示される。このプルダウンメニューでは、電子メール  
の送信、電子メールの読み込み、メーラーの終了等の指  
示を行う。

【0067】102は編集メニューであり、電子メール  
する本文の編集に使用する。編集メニューにはコピー等  
の編集処理のコマンドがプルダウンメニューに用意され  
ている。103が上述の「サービス」フォルダ52に対  
応するメニューアイテムである(ツールバー上に独立さ  
せず、ファイルメニュー101など他のメニューアイテ  
ムに組み込むことも許す)。ウィンドウ作成時にCPU  
10は「サービス」フォルダ52をチェックし、その中  
に配置された「AAA」フォルダ56や「BBB」フォ  
ルダ57を参照してメニューアイテムを構成する。ユー  
ザが表示画面上のマウスカーソルで「サービス」メニ  
ューを指定すると図3に示すようにプルダウンメニュー1  
05が表示される。プルダウンメニュー105には「なし」  
、「AAA」、「BBB」のメニューアイテムが用意され  
る。

【0068】ユーザがたとえば、「AAA」にマウスカ  
ーソルを合わせ、左クリックボタンを操作すると、「A  
AA」が選択される。この選択に応じて、「サービスメ  
ニュー」の右隣に「AAA」メニュー(通信先メニュー  
とも称す)104が作成される。ユーザがプルダウンメ  
ニュー105内の「なし」を選択すると、右隣のメニ  
ューアイテムの表示がなくなる。

【0069】プルダウンメニュー105内に表示される  
アイテム名は「なし」が固定であり、その他は、図2の  
「サービス」フォルダ52内に含まれるフォルダを参照  
してアイテム名を決める。(フォルダー名と同じでもよ  
いし、フォルダー内に格納された所定のファイルで定義  
してもよい。)104は「サービス」メニュー100の  
プルダウンメニューの中で選択されたアイテム名と同じ

10

20

30

40

50

アイテム名を持つメニューアイテムである。ユーザがメニュー104にマウスカーソルを合わせ、左クリックボタンを操作すると図4に示すようにプルダウンメニュー106が表示される。

【0070】プルダウンメニュー106に表示されるアイテムの名前は、図2の「AAA」フォルダ56に含まれる `preference.txt` で定義されている名前である。図4に `preference.txt` に記載されている名前と、プルダウンメニュー106の名前の対応関係を示した。ユーザがプルダウンメニューの「ホームページ」をマウス16により指定すると、`preference.txt` に記載されているホームページに対してCPU10がアクセスし、指定されたホームページをディスプレイ14に表示させる。

【0071】以上述べたメニューアイテムの名前やプルダウンメニュー内のアイテムの名前はウィンドウ配置情報中に変数の形態で記憶される。CPU10はウィンドウ配置情報に基づいてOSが提供する描画機能により表示に使用するウィンドウのイメージを合成する。また、メニューアイテムの名前を変数で記憶することにより、名前を固定化することなく、自由に変更することができる。

【0072】ユーザがマウスにより図4のプルダウンメニュー106の「資料請求メール」を指定すると、CPU10は `preference.txt` で定義されている宛先に、予め用意してある電子メール文を送信する。例えば、メーラーに登録した氏名、住所など個人情報を抜き出してメール文として自動編集する。

【0073】図5に戻り、上述のグラフィカルユーザインターフェース（「サービス」メニュー103および関連のメニュー104およびそれらのプルダウンメニュー105、106）を実現するためのプログラム内容を説明する。

【0074】ステップS10でCPU10は図3のウィンドウ画面のイメージを作成し、ディスプレイ14の表示画面に表示する。続いて、CPU10は「サービス」メニューのプルダウンメニュー105で選択され、その他ファイル（図2の符号54）のウィンドウ配置情報内に含まれている選択アイテム名、この場合、「AAA」に基づき、文字列「AAA」を通信先メニューとして表示する。

【0075】次に、CPU10はユーザにより「サービス」メニューが選択されたか否かを判定する（ステップS10）。より具体的には、ウィンドウ画面の作成のためにウィンドウ配置情報中の、メニューアイテム名の矩形座標位置を参照し、左クリックボタンが操作されたとき、マウスカーソルの位置が「サービス」メニューの矩形内にあるか否かを判定する。

【0076】マウスカーソルの位置が矩形内に位置している場合には、ユーザが「サービス」メニューを選択し

ていると判定し、マウスカーソルの位置が矩形内に位置していない場合にはユーザが「サービス」メニューを選択していないと判定する。

【0077】YESの判定が得られた場合、CPU10は手順をステップS25に進め、プルダウンメニュー105を図3のように表示させる。

【0078】ユーザがマウスを操作し、プルダウンメニュー内の所定のアイテムを選択すると通信先メニュー104の名前が選択されたアイテムと同じ名前に変更される。この処理は本発明に係わるので図6を使用して後述する。

【0079】マウスカーソルが「サービス」メニュー103の矩形枠内にない場合は、CPU10は通信先メニュー104の存在の有無を確認する（ステップS30）。

【0080】プルダウンメニュー105の「なし」が選択されていることにより「サービス」メニュー103がないことが、CPU10により検出されると、手順はステップS30→S50へと進み、CPU10は他のメニューアイテムの検出処理やその他のマウスによる動作の指示を識別する。

【0081】一方、「サービス」メニュー103で、「なし」以外のアイテムが選択されている場合には、その選択されたアイテム名が通信先メニュー104のアイテム名となるので、「なし」が選択されていないことをCPU10が確認すると手順はステップS30からS40へと進む。ステップS40でマウスカーソルが通信先メニュー104の矩形枠に位置しているかの判定により、ユーザが通信先メニュー104を選択しているか否かを判定する。

【0082】ユーザが通信先メニュー104を選択している場合には、手順はステップS45に進み、プルダウンメニュー106の表示とアイテム選択のための処理が行われる。ステップS45の処理の詳細は図7を使用して後で説明する。

【0083】以下、ユーザが終了の指示を行うまで、ステップS20からステップS60の間の処理が繰り返される。

【0084】図5のステップS25のプルダウンメニュー表示処理および選択処理を図6を参照して説明する。

【0085】「サービス」メニューがユーザにより選択されると、CPU10はウィンドウ配置情報の「サービス」メニューに関連付けられたプルダウンメニューの配置情報を参照して、プルダウンメニューのイメージをシステムメモリ11のワーク領域上で合成し、ビデオメモリ領域に書き込む。プルダウンメニュー自体は周知であるので、詳細な説明を要しないであろう。これにより、ディスプレイ14には図3の符号105で示すプルダウンメニューが表示される（ステップS100～S120）。

【0086】ユーザがマウス16を操作して、マウスカーソルをプルダウンメニュー105内の所望のアイテムに位置させると、CPU10はウィンドウ配置情報が持つアイテムの位置情報と、マウスカーソルの確定位置とを比較し、合致する位置情報をもつアイテムをユーザが選択したアイテムと判断する。アイテム「なし」をユーザが選択した場合にはそのことがステップS130で検出される。この検出に応じて、CPU10はウィンドウ配置情報中の通信先メニュー104のアイテム名を空白に設定する。これにより現在、表示されているウィンドウ100の通信先メニュー104の名前は空白に変更される（ステップS135）。

【0087】「なし」以外のアイテムが選択された場合には、CPU10は選択された名前と同じ名前をウィンドウ配置情報中の通信先メニューのアイテム名に設定する。これにより現在、表示されているウィンドウ100の通信先メニュー104の名前は選択されたアイテムの名前と同じ名前に変更される（ステップS140→S145）。

【0088】図5のステップS45の処理を図7を参照して説明する。

【0089】CPU10は選択されたアイテム（「AAA」）104についてプルダウンメニューに表示する文字列を「AAA」フォルダ内の`preference.txt`から取り出し、ウィンドウ配置情報に対応のアイテムの名前に設定する。また、ウィンドウ配置情報に基づいてプルダウンメニューのイメージをシステムメモリ11上のワーク領域で合成して、ビデオメモリ領域に転送する。これにより、ユーザがアイテム「AAA」をマウス16により指定した時にプルダウンメニュー106が図4に示すように表示される（ステップS200～S220）。

【0090】CPU10はユーザによるプルダウンメニューアイテムの選択を待つ（ステップS230のループ処理）。ユーザがマウスを操作して所望のプルダウンメニューアイテム、たとえば、図4の「ホームページ」を選択すると、マウスカーソルの位置に基づき、「ホームページ」が選択されたことがCPU10において検出される（ステップS240）。

【0091】CPU10は、`preference.txt`の記載内容を参照して、選択されたアイテムに対応するアクセス先を取得する。具体的な処理内容の一例を紹介すると、選択されたアイテム「ホームページ」と同じ文字列を有する`preference.txt`を検索し、その文字列が含まれる行全体の文字列を取得する。

【0092】次に「ホームページ：」の後の文字列を行全体の文字列の中から取り出すことでURLを示す文字列を取得する。上記プルダウンメニューに表示する文字列を`preference.txt`から取り出した時点でこの処理を同時に行い、URLを示す文字列をメモリ

内に記録してもよい。CPU10はブラウザを起動して、取得したURLを示す文字列をブラウザに引き渡す。これによりブラウザはURLを表示する（ステップS245）。

【0093】一方、ユーザがアイテム「資料請求メール」を選択した場合には、そのことがステップS250で検出される。手順はステップS255へと進み、このステップで、予めHDD15内のその他ファイル54に格納されている資料請求のための情報（個人名や住所等）が`preference.txt`内に記載されている電子メールアドレス（図4参照）に送信される。

【0094】ユーザがプルダウンメニューのアイテムを選択することなく（停止することなく）、マウスカーソルをプルダウンメニューの外に位置させた場合には、そのことがステップS260で検出され、表示用イメージをプルダウンメニュー表示前の状態に戻すことによりプルダウンメニュー106を表示画面から消去する（ステップS270）。プルダウンメニューの表示はホームページの表示や電子メールの送信が行われた場合にも消去される（ステップS245→S270、ステップS255→S270）。

【0095】以上、説明したように、ユーザはメーラーの操作ウィンドウのツールバー内に表示されたメニューアイテム104およびプルダウンメニュー106内の所望のアイテムをマウス16で指定するだけで、以後は図7のグラフィカルインターフェース処理によりCPU10が自動的に、ホームページへアクセスするか、電子メールを送信する。従来は、メーラーとブラウザの切り換えや、アクセス先の入力をユーザが行わなければならないので、従来よりもユーザの操作が簡略化される。

【0096】最後に、メーラーを起動した後、ユーザが操作していないことを見計らって行われるメール送信案内（URL表示案内でもよい）について説明する。

【0097】図8はメール送信案内を行うためのプログラムの内容を示す。

【0098】メーラー起動と同時にCPU10は、システムタイマーをスタートさせる（ステップS300）。CPU10は`preference.txt`を参照して決定される時間間隔に到達したか否かをシステムタイマーの計時時間に基づき判定し、到達したと判定すると、

「資料請求メール」送信の案内メッセージ（この例では図2の`interval.wav`）をスピーカ13を介して音声出力する（ステップS310→S330）。前述の時間間隔は`preference.txt`で定義される最短時間間隔と最長時間間隔との間で適当な時間がランダムに決められる。また、ユーザが何か操作を行うたびにシステムタイマーはゼロクリアされる（ステップS310→S315）。一度案内メッセージの音声再生されると、前述の時間間隔を設定する処理を再び実行する（ステップS330→S300）。

【0099】（第2の実施形態）第2の実施形態のシステム構成を図9に示す。図9において、ソフト配布サーバ1000は第1実施形態で説明したメーラーおよびプリファレンステキストを一般ユーザのクライアント1100に配布（ダウンロード）するためのサーバである。一般ユーザのクライアント1100はダウンロードしたメーラーとプリファレンステキストを使用して、さらにメーラーのツールバーを使用してホームページをブラウザに表示させたり資料請求のメールを送るクライアントである。メーラーおよびプリファレンステキストは内部のハードディスクに記憶され、周知の通信機能によりダウンロードされる。

【0100】ガイダンスサーバ1200は一般ユーザのクライアント1100に対して商品（情報サービスなどの役務を含む）のガイダンス（宣伝情報）データを配信するサーバである。

【0101】この実施例では、一般ユーザのクライアント1100から所定タイミングで繰り返し、たとえば、メーラーが起動されたとき、クライアント1100の電源が投入されたときなどに自動的に一般ユーザのクライアント1100からガイダンスサーバ1200に対してガイダンス要求が送信される。ガイダンス1200は一般ユーザのクライアント1100からの要求に応じて最新のガイダンスデータをFTPなどの通信プロトコルで一般クライアント1100に送信する。一般ユーザのメーラーは送信されたガイダンスデータを受信し、装置内部（ハードディスク）の所定の記憶領域に受信したガイダンスデータを保存する。保存されたガイダンスデータ（音声ファイル）は第1の実施形態で説明したように所定タイミングで再生出力される。

【0102】このような処理を行なうための、一般ユーザのクライアント1100側の処理手順を図10に示し、ガイダンスサーバ1200側の処理手順を図11に示す。

【0103】図10の処理手順は、第1実施形態で説明したメーラー内部に組み込まれたプログラム内容を示すが、メーラーに限らず、別のプログラムにより実現してもよい。

【0104】図11の処理手順は、ガイダンスサーバ1200内に搭載されたゲートウェイプログラム、たとえば、HTTPなどの通信プロトコルで一般ユーザのクライアント1100から送信されるガイダンス要求に応じて実行されるゲートウェイプログラムの内容を示す。

【0105】本実施形態の場合、メーラーが起動されたときに図10のプログラムも実行される。すなわち、メーラーの起動に応じて、ガイダンス要求のタイミングであることが検出され（ステップ400）、メーラーに予め設定されたガイダンスサーバ1200のアドレスまたはpreference.txt（図4）で規定されるガイダンスサーバ1200のアドレスに対して、ガイダ

ンス要求が送られる（ステップS410）。

【0106】一方、ガイダンスサーバ1200では、一般ユーザのクライアント1100からのガイダンス要求を受け取ると（図11のステップS500）、最新ガイダンスを装置内のハードディスクから読み出して、要求先のクライアント1100に対して読み出した最新ガイダンス（音声ファイル）を送信する（ステップS520）。

【0107】一般ユーザのクライアント1100は送信された最新ガイダンスを受信すると、予め定められているフォルダ内（たとえば、第1実施形態の「AAA」フォルダ内）に受信した最新ガイダンスを記憶する。同じ名前のガイダンスを最新のガイダンスで書き換える（図10のステップS420→S430）。

【0108】以上の処理手順がメーラーの起動ごとに繰り返され、ガイダンスサーバ1200から最新のガイダンスが送られる。ガイダンスには販売したい商品の宣伝情報を織り込めばよい。本実施形態では、ユーザはガイダンスの更新操作を行なう必要はなく、また、記憶している古いガイダンスは新しいガイダンスで書き換えられるので、一般ユーザのハードディスクの記憶容量を必要以上に減少させることもない。

【0109】ガイダンスサーバ1200では、通信ネットワーク（インターネット）に接続された他のクライアントから宣伝に使用する最新ガイダンスを登録してもよいし、ガイダンスサーバ1200のマイクロフォンから直接、最新ガイダンスを登録してもよい。従来は、ガイダンスサーバ1200からメーリングリストの形態で一般ユーザのクライアント1100に対して、一定周期でガイダンスなどの宣伝情報が一方的に同報通信されていたのに対し、本実施形態では、一般クライアントからの要求に応じてガイダンスサーバ1200が宣伝情報を送る点が相違点となる。メーリングリストによる宣伝情報の伝達ではメールが蓄積してしまうので、一般ユーザは受信したメールを削除する必要があるが、本実施形態では、新しい宣伝情報で古い宣伝情報を書き換えてしまうので、クライアント1100側のファイル数は必要以上に増加しないというメリットがある。

【0110】（第3の実施形態）第3の実施形態のシステム構成は第2の実施形態と同様である。また、一般ユーザのクライアント1100には第1実施形態で説明したメーラーが搭載されているものとする。ただし、上記メーラーには後述の新規機能を有する。

【0111】この形態では、ソフト配布サーバ1000（本発明の第2のサーバ）は音声形態の宣伝情報（案内情報を兼ねる）と、クライアント1100内に搭載される図4のプリファレンステキスト（本発明の第1のサーバの通信アドレス情報）を保有する。このプリファレンステキストの中には、ソフト配布サーバ1000自体のホームページのURLが記載されており、クライアント

1100の操作者は、メーラー上のプルダウンメニューに表示されるこのURLを指定してホームページにアクセスすることができる。アクセスした後、手動でソフト配布サーバ1000から音声形態の宣伝情報をダウンロードすることもできる。

【0112】第3の実施形態では、電源投入時やメーラーの起動中であってメーラーに対して操作者が操作を行っていない間、あるいはコンピュータの状態の変化から自動的に定まる所定のタイミング（たとえば、ブラウザの起動やメーラーの起動など）に、クライアント1100からソフト配布サーバ1000に対して自動的にアクセスし、最新のプリファレンステキストをクライアント1100がダウンロードする。ダウンロードされた最新のプリファレンステキストで古いプリファレンステキストが書き換えられる。この機能を実現するためのプログラムは第1の実施形態で説明したプログラムの中に組み込んでおいてもよいし、別のプログラムとしてもよい。

【0113】この形態の応用形態としては次が挙げられる。a) ソフト配布サーバ1000では分野別に複数種類のプリファレンステキストを用意する。クライアント1100からのダウンロード要求があったときには、ソフト配布サーバ1000はクライアント1100に搭載されているプリファレンステキストと同じ種類の最新のプリファレンステキストのみをクライアント1100に引渡す。このための情報処理方法としては次の2つの方法のいずれかを使用するとよい。第1方法ではクライアント1100からプリファレンステキストの種類を指定する。種類としては、予め定めておいた識別番号を使用してもよいし、URLやメールアドレス自体も種類情報として使用できる。これらの種類情報に加えて、バージョン情報や、実装した日付情報を付加してもよい。

【0114】第2の方法では、ソフト配布サーバ1000側でクライアント1100に適したプリファレンステキストを自動選択する。このためには、クライアント1100がメーラーをダウンロードしたときや、プリファレンステキストの更新のために初めてクライアント1100がソフト配布サーバ1000にアクセスしたときに、ソフト配布サーバ1000がクライアント1100に搭載されたプリファレンステキスト種類情報とクライアント1100自体の個人識別情報、たとえば、ユーザID、その他、個人識別に使用する情報（名前、メールアドレス等）を受け取り、ソフト配布サーバ1000内のデータベースに登録しておく。

【0115】クライアント1100がプリファレンステキストのダウンロードのためにアクセスした場合には、上記個人識別情報による識別を行なった後、データベースに登録されているプリファレンステキスト種類情報に基づいて、最新（最新でなくてもよいが）のプリファレンステキストをクライアント1100に引渡す。

【0116】b) ソフト配布サーバ1000から音声形態の宣伝情報をプリファレンステキストと共に自動的にダウンロードすることもできる。

【0117】c) プリファレンステキストの自動ダウンロードの前にダウンロードする旨の案内メッセージを表示し、ダウンロードすることの確認を操作者から受け付けるようにしてもよい。

【0118】（第4の実施形態）第1の実施形態～第3の実施形態ではプリファレンステキストがクライアント1100内に搭載される例であった。これに対して、各クライアントごとにプリファレンステキストもしくはプリファレンステキストに記載された情報をデータベースの形態でソフト配布サーバ1000に保有する第4の実施形態を説明する。この形態では、プリファレンステキストの代わりに図3のプルダウンメニュー105に表示する情報（いわゆるリスト情報）が使用される。リスト情報は会社名や商品名を使用することができる。ソフト配布サーバ1000からクライアント1100がリスト項目およびリスト項目に関連して表示する文字列（図4のプルダウンメニュー106で表示する文字列）を受け取り、内部に記憶しておく。

【0119】メーラーの起動中、操作者が図3のメニュー項目103（サービス）をマウスで指定すると、内部に記憶されたリスト項目がプルダウンメニュー105内に表示される。操作者に選択されたリスト項目がツールバー100上に表示される点は第1の実施形態と同様である。なお、この実施形態では、ツールバー上で操作者によりリスト項目が指定されると、リスト項目と共にソフト配布サーバ1000から受信した文字列が表示される（図4の例では、ホームページおよび資料請求メール）。操作者がいずれかの項目をマウスで選択すると、クライアント1100はソフト配布サーバ1000に対して、選択されたリスト項目および関連項目を送る。ソフト配布サーバ1000では受信したリスト項目及び関連項目に対応する通信アドレス情報（URLまたはメールアドレス）をクライアント1100に返す。クライアント1100では受信した通信アドレス情報を使用して、ホームページをブラウザに表示させたり電子メールを送信したりできる。

【0120】この形態の応用形態としては次の形態を実施できる。

a) 上述のリスト項目および関連文字列は、クライアント1000の電源投入時、メーラーが起動したときに、あるいはメニュー項目103や104がマウスで指定された瞬間に最新のものを取り込むようにしてもよいことは勿論である。

b) また、図3のプルダウンメニューにリスト項目を表示する機能とツールバー100に選択リスト項目を表示する機能および表示されたリスト項目でのプルダウンメニューを表示させる機能、およびこのプルダウンメニュー



ーでアクセス先を選択する機能、選択されたアクセス先に接続する機能の全てあるいは一部を実行するためのプログラムを、メーカーが起動されるごとにソフト配布サーバ1000からクライアント1100にダウンロードすることもできる。この機能はJ A V A（サンマイクロシステムズ社の商標）やA c t i v e X（マイクロソフト社の商標）などを使用すると実現できる。

【0121】 上述の実施形態の他に次の形態を実施できる。

1) 上述の実施形態ではツールバーの大きさ、ツールバー上のメニューやプルダウンメニューのアイテム名や、位置、ウィンドウ全体の大きさ等をパラメータの形態でウィンドウ配置情報の中に含めておくことOSがウィンドウ配置情報に基づき、イメージを合成して表示する例であったが、OSの種類に応じて、ウィンドウのパラメータも変わるので、OSに対応させて、グラフィカルユーザインターフェース用のプログラムを作成すればよい。図2のディレクトリ構造も一例であって、たとえば、その他ファイルの情報（個人名や住所等）をレジストリに登録することもできる。なお、アップル社のMac OS（商標）を使用する場合にはウィンドウ用のイメージはリソースフォークに登録される。

【0122】 2) 上述の実施形態ではポインティングデバイスとしてマウスを使用した、他のポインティングデバイス、たとえば、トラックボールを使用してもよいこと勿論である。

【0123】 3) 本明細書で言うプログラムを記録する記録媒体とはハードディスク、RAMのようなICメモリ、CDROMのような各種の携帯用記録媒体を意味する。さらに、図1のクライアント用のコンピュータがインターネットなどにより外部装置からプログラムをダウンロードする場合には、ダウンロード元のコンピュータ内のプログラムを記憶している記憶手段が記録媒体となる。

【0124】 4) 上述の実施形態でクライアントがインターネットに接続されている例を説明したが、通信ネットワークはインターネットに限らず、LANやその他の通信ネットワークでもよい。また、通信形態も有線に限らず、無線でもよい。

【0125】 5) 上述の実施形態では音声データ（s t a r t. w a vやi n t e r v a l. w a v）の再生によるユーザの注意の喚起について説明したが、静止画や動画を用いても同じ効果が得られることは言うまでもない。

【0126】 6) 上述の実施形態ではメール送信の簡素化を含めるため、メーカーで説明しているが、URLの閲覧だけでよければ、ブラウザはもちろん、ワープロソフトや表計算ソフト等でも同様に本発明を実施できる。

【0127】 7) 上述の第2の実施形態においてガイダンスサーバ1200とソフト配布サーバ1000は共通

でもよいし、ガイダンスサーバ1200と商品情報を提供するWEBサーバが共通でもよい。

【0128】 8) 上述の第2の実施形態において、ガイダンスを要求する際にクライアント側の最終更新日時をガイダンスサーバ1200に送信し、ガイダンスサーバ1200がその日時と自分のデータ更新日時とを比較することにより、既にクライアント1100に保存されているデータを改めて送りなおすという無駄を省くことができる。

【0129】 9) 上述の第2の実施形態において、ガイダンスを再生するタイミングでガイダンスデータの送信をガイダンスサーバ1200に要求することにより送信されたガイダンスデータをすぐ再生し、再生後廃棄すればディスクに保存する必要がなくなる。

【0130】 10) 上述の第2の実施形態において、一般ユーザのクライアント1100からガイダンスサーバ1200へガイダンスを要求する場合、ガイダンスの種類情報を含めることができる。種類情報は、たとえば、図4のテキスト文書中の電子メールアドレスに関連付けて記載しておけばよい。

【0131】 11) 上述の第1の実施形態ではツールバーは帯状の形状であるが、ツールバーはどのような形状であってもよい。

【0132】 12) 上述の形態では、クライアント1000は通信ネットワークに直接接続しているが、プロバイダや会社内の通信サーバを介して接続してもよいこと勿論である。

【0133】 13) さらに上述の実施形態の変形例として次の形態を挙げることができる。

【0134】 a) 上述の第3の実施形態において、通信アドレス情報が複数種類あってクライアント1100ごとにどの種類を使用するかがソフト配布サーバ（第2のサーバ）1000に記録されており、通信アドレス情報の要求がクライアント1100からソフト配布サーバ1000に送信されてきた場合に、ソフト配布サーバ1000がクライアント1100がどの種類の情報を必要としているかを判断して必要な種類の情報のみをクライアント1100に送信する。

【0135】 b) 上述の第3の実施形態において、クライアント1100は、通信アドレス情報を保有するソフト配布サーバ（第2のサーバ）1000から通信アドレス情報が送信されるごとに当該送信された通信アドレス情報で、これまでに送信された通信アドレス情報を書き換える。

【0136】 c) 上述の第3の実施形態において、クライアント1100から音声形態の宣伝情報を保有するソフト配布サーバ（第2のサーバ）1000へは所定のタイミングで繰り返し、音声形態の宣伝情報の要求が送信される。

【0137】 d) 上述の第3の実施形態において、音声

形態の宣伝情報が複数種類あって、どの種類を使用するかの設定情報がクライアント1100側に記録されており、クライアント1100が音声形態の宣伝情報の要求をソフト配布サーバ（第2のサーバ）1000に送信する際に、当該設定されている種類の情報のみを要求する。

【0138】e) 上述の第3の実施形態において、音声形態の宣伝情報が複数種類あってクライアントごとにどの種類を使用するかがソフト配布サーバ（第2のサーバ）1000に記録されており、音声形態の宣伝情報の要求がクライアント1100からソフト配布サーバに送信されてきた場合にソフト配布サーバ1000がクライアント1100がどの種類の情報を必要としているかを判断して必要な種類の情報のみをクライアント1100に送信する。

【0139】f) 上述の第3の実施形態において、通信アドレスをダウンロードしたクライアント1100のメールアドレスをソフト配布サーバ1000に記憶しておき、宣伝情報をクライアント1100にボイスメールの形態で送信する。

【0140】

【発明の効果】以上、説明したように、本発明によれば、ユーザはメーラー上のプルダウンメニューを操作するだけで、所定の電子メール文を自動送信したり、ホームページに自動的にアクセスすることができる。これにより、商品販売会社に対する接触機会が増え、販売が促進されるという効果を操作する。

【0141】さらに本発明は以下の効果をも有する。

【0142】1) 音声データの出力により操作のための案内や各種の案内をユーザに対して提供することができるので、ユーザが操作にまどつくことはない。

【0143】2) また、案内の音声に著名人の音声を使用することでユーザに対して、第2のフォルダーを提供した第3者のサービスに対する関心を喚起することができる。

【0144】3) 第2のフォルダーを用意して、クライアント側に提供するだけでよいので、URLや電子メールアドレスの変更通知をユーザに対して行う必要はなくなる。ユーザ側でブラウザのブックマークやメーラーのアドレス帳に変更後のURLや電子メールアドレスを再登録する必要もなくなる。

【0145】4) メーラーの使用料を個々のユーザから徴収せずとも、第2のフォルダーを提供する宣伝費として効率よく回収するシステムを構築することも可能である。第2のフォルダーを有償化し、メーラーの使用料をそれらに分散させて回収するシステムを構築することも可能である。従来は、ソフトウェアをバージョンアップ（機能追加）し、ユーザに新たな利便性を提供しようとしても一括して回収する使用料がネックになり、ユーザになかなか最新のソフトウェアを使ってもらえなかつ

た。しかしながらソフトウェアの使用料を分散して回収するシステムを構築することでこの問題を解消することもできる。

【0146】さらに本発明によれば、商品販売業者は、メーラーに自己のサーバのアクセス先を示す情報を帯同させることにより、一般のユーザのクライアントから宣伝情報の要求が発信される。このため、商品販売業者側では一般ユーザのクライアントのメールアドレスを調べる手間が不要となる。

10 【0147】また、宣伝情報は、商品販売業者側で更新すればよく、更新された宣伝情報で一般ユーザのクライアントの宣伝情報も自動的に更新されるので、一般ユーザは宣伝情報の更新操作を行なう必要はなく、また、内部記憶装置の記憶容量が、宣伝情報で損なわれることもない。

20 【0148】さらに宣伝広告用サーバ（第1のサーバ）の通信アドレスもクライアントが第2のサーバから定期／あるいは不定期で取り込み更新することで、クライアントの操作者が手動で通信アドレス情報を更新する手間を省くことができる。

【0149】第2のサーバでも宣伝情報を音声形態で送ることにより通信アドレス情報のサービス機能を宣伝することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明第1の実施形態のシステム構成を模式的に示すブロック図である。

【図2】本発明第1の実施形態のディレクトリ構造を示す説明図である。

30 【図3】本発明第1の実施形態の表示の一例を示す説明図である。

【図4】本発明第1の実施形態の表示の一例を示す説明図である。

【図5】本発明第1の実施形態の処理手順を示すフローチャートである。

【図6】本発明第1の実施形態の処理手順を示すフローチャートである。

【図7】本発明第1の実施形態の処理手順を示すフローチャートである。

40 【図8】本発明第1の実施形態の処理手順を示すフローチャートである。

【図9】本発明第2の実施形態のシステム構成を示すブロック図である。

【図10】本発明第2の実施形態のクライアント1100の処理手順を示すフローチャートである。

【図11】本発明第2の実施形態のガイダンスサーバ1200の処理手順を示すフローチャートである。

【符号の説明】

10 CPU

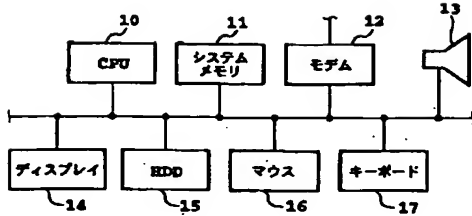
11 システムメモリ

12 モデム

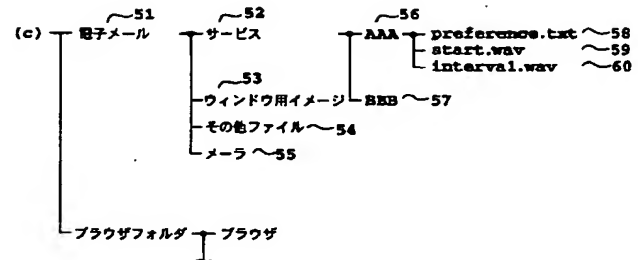
14 ディスプレイ  
15 HDD

16 マウス  
17 キーボード

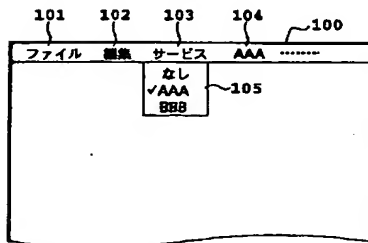
【図1】



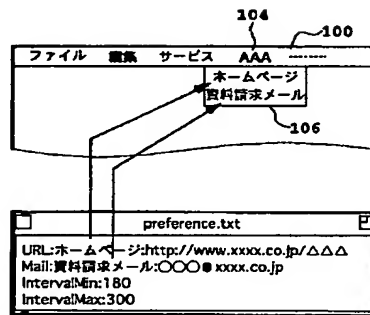
【図2】



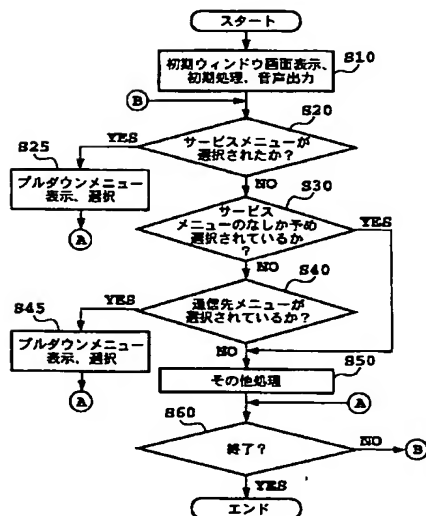
【図3】



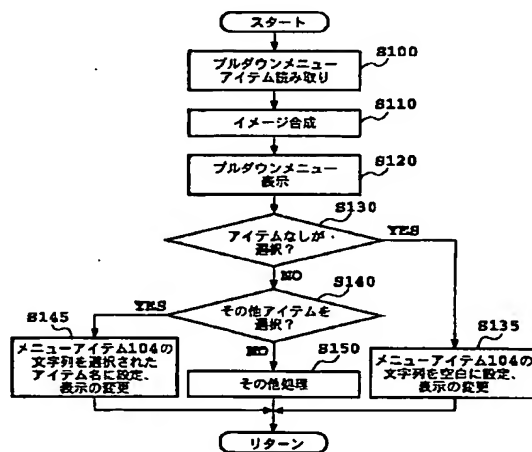
【図4】



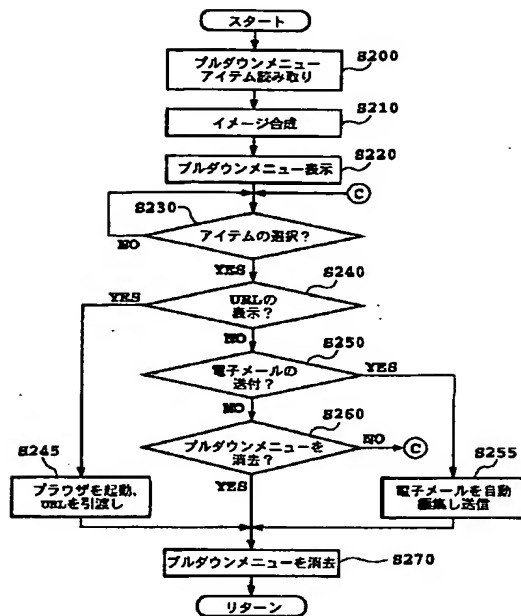
【図5】



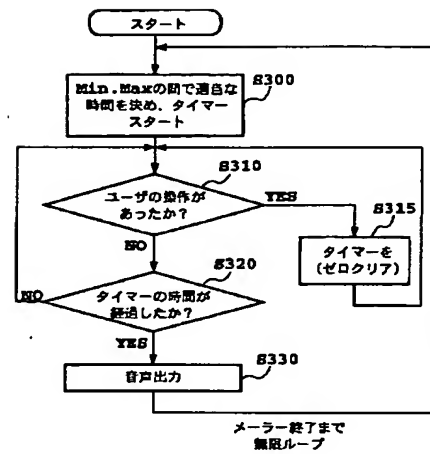
【図6】



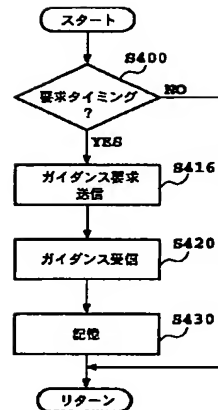
【図7】



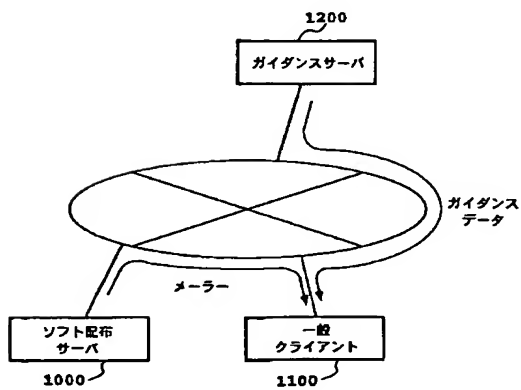
【図8】



【図10】



【図9】



【図11】

